

令和6年度 カリキュラム開発研究

授業ガイド



造形的な見方・考え方を働かせながら

感じ方を深められる生徒の育成

—教科等横断的な視点からの授業改善—

東京都教職員研修センター 研修部 教育経営課

杉並区立中瀬中学校 主任教諭 長里 祐花

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2

検証授業Ⅰ 国語 美術・・・・・・・・・・ p 3

授業デザインソフトの活用 Ⅰ・・・・・・・・ p 4

授業デザインソフトの活用 2・・・・・・・・ p 9

検証授業Ⅱ 美術 理科・・・・・・・・・・ p 20

授業デザインソフトの活用 Ⅰ・・・・・・・・ p 21

授業デザインソフトの活用 2・・・・・・・・ p 28

各ページの白い部分は学習指導案、水色の背景の部分は授業デザインソフトの活用例や研究に特に関わる手だてとして、検証授業後に追記した部分です。

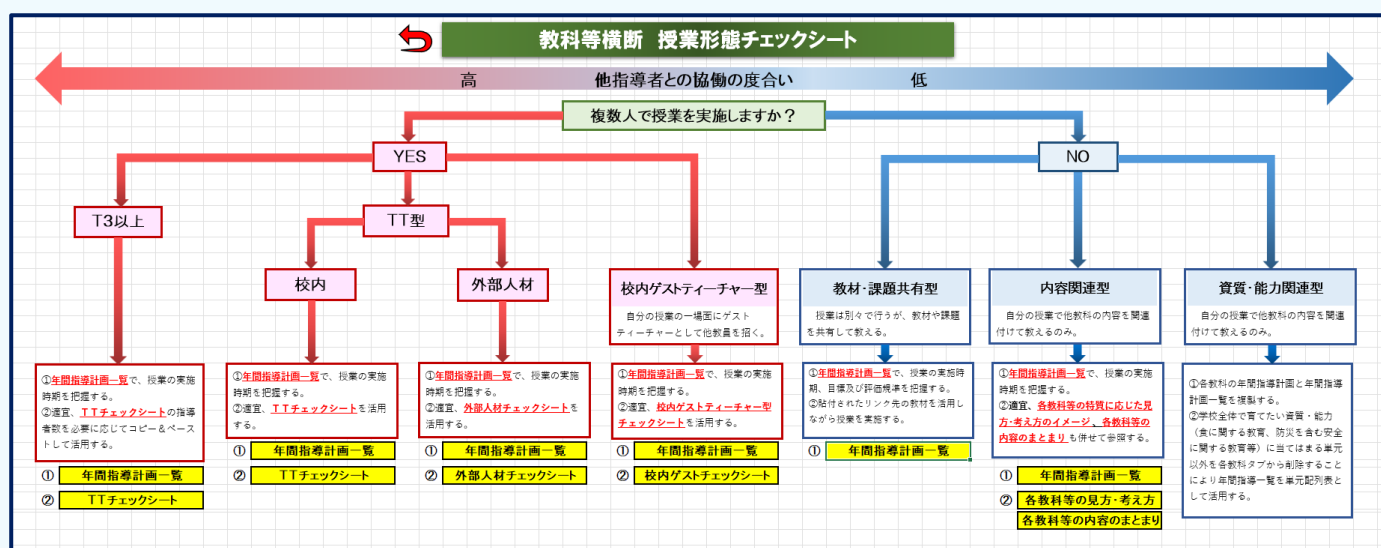
はじめに

この「授業ガイド」は、令和6年度中学校美術科におけるカリキュラム開発研究「造形的な見方・考え方を働かせながら感じ方を深められる生徒の育成—教科等横断的な視点からの授業改善—」で行った検証授業の内容をまとめたものです。本ガイドとは別に、教科等横断的な視点から授業をつくる際に活用する「授業デザインソフト」を研究の成果物として配布しています。検証授業の内容とともに、授業デザインソフトの具体的な使用方法をまとめました。

「教科等横断的な視点」は「中学校学習指導要領 解説 総則編」において、カリキュラム・マネジメントの一側面として記載されており、教育課程を編成する上では「学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力など、学校として、教科等横断的な視点で育成を目指す資質・能力を明確にし、その育成に向けた適切な指導がなされるよう配慮する。」と記されています。また、「付録6」には育成したい資質・能力に応じた「教科等横断的な教育内容」が具体的に示されています。

「教科等横断的な教育内容」を実現するための過程や指導方法については様々な形態が考えられますが、本研究では、他教科等の教員や外部人材と円滑に連携を図る上で必要な手だてを中心に据えています（下図「授業デザインソフト」内、「教科等横断 授業形態チェックシート」）。美術科以外の先生方も、御自身の教科等でどのように教科等横断的な視点から授業をつくることができるか、考えるきっかけにいただけたら幸いです。

本ガイドは、学習指導案をベースとしながら、実際に使用した教材等も掲載しました。ぜひ、御活用ください。



「授業デザインソフト」内、「教科等横断 授業形態チェックシート」

国語 美術

「校内 TT 型」

国 語

〈言葉による見方・考え方〉

自分の考えが伝わる文章
になるように工夫する活動

教科等横断

見方・考え方を働かせる

美 術

〈造形的な見方・考え方〉

美術作品がもつよさや
美しさなどを感じ取る活動

自分の考えを整理し、価値意識をもって批評し合う過程を通して、
鑑賞の視点が豊かになる。

「感じ方」を深める



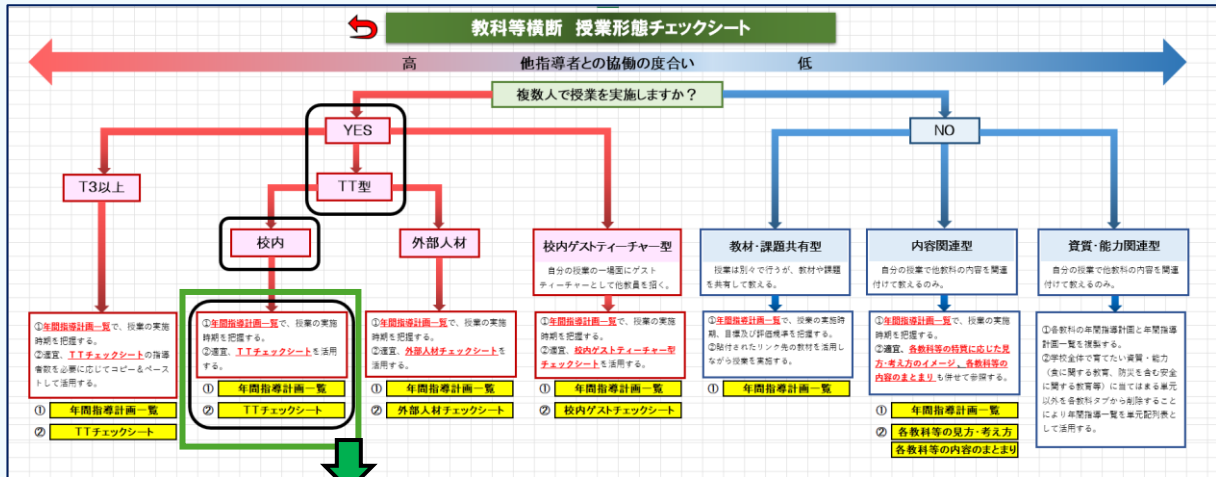
国語科 美術科 学習指導案

(教科等横断的な学習)

授業デザインソフトの活用 Ⅰ

(1) 「教科等横断 授業形態チェックシート」で授業形態を確認する。

今回は、**複数人で授業を実施**→**チーム・ティーチングで実施 (TT 型)**→**校内で実施** である。



① 年間指導計画一覧で、授業の実施時期を把握する。
② 適宜、TTチェックシートを活用する。

① 年間指導計画一覧
② TTチェックシート

(2) (1)で選択した表の下部に「授業デザインソフト」内の関連するページのリンクがある。

「年間指導計画一覧」、「TT チェックシート」を活用し、授業を計画する。

(3) 「年間指導計画一覧」を開くと、何月の何週に各教科等でどのような学習が行われているのか、確認することができる。この表を基に授業の実施時期を検討する。(可能なら前年度に検討)

●●●立●●●中学校第2学年 年間指導計画一覧													
	4月					5月							
	1週	2週	3週	4週	5週	1週	2週	3週	4週	5週	1週	2週	
国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語
英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会
数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学
理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術	技術

- (4) 各教科の予定の「ジャンプ」ボタンを押すと、詳細な内容のページ（各教科の年間指導計画）へ移動するようになっている。

実施週	実施月				
	1 週	2 週	3 週	4 週	5 週
美術	地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）	地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）	地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）	地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）	地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）
ジャンプ	美術	美術	美術	美術	美術

題材名

ジャンプボタン「美術」を押すと、「美術の年間指導計画」へ移動する。

- (5) 「各教科の年間指導計画」のページで題材（単元）の目標及び評価規準を確認する。
題材名は「年間指導計画一覧」に反映されるため、他教科の担当が見ても内容が伝わるように書く。

▼実施開始月	▼実施開始の週	▼総授業時数	題材名	目標
				地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）
11 月	1 週～	6	地球から、自分の色を生み出す（絵画制作）	自分がつくった顔料から見つめ感じ取ったこと、考えたことや想像や感情、心の世界などを基に生み出す。心豊かに表現する態度を養ふことができる。
評価規準				
1				
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		主体的に学習に取り組む態度
<p>知：形、色彩や材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。</p> <p>技①：自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p> <p>技②：自作した顔料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表現している。</p>		<p>発：自作した顔料を深く見つめながら、感じ取ったこと、考えたことや想像、感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化、省略や強調、顔料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する態度を養っている。</p> <p>応：身近な環境の中にもみられる造形的な美しさなどを取り取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする表現や動きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。</p>		<p>参：美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にし表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>参：美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品や身近な環境に見られる造形的な美しさについての取組の学習に取り組もうとしている。</p>

評価規準

1 題材（単元）名 「君は『最後の晚餐』を知っているか」 「国語2」光村図書出版

2 国語科の単元の目標

(1) 「知識及び技能」に関する単元の目標

- 意見と根拠及び具体と抽象など、情報と情報との関係について理解することができる。

（情報の扱い方に関する事項（2）ア）

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する単元の目標

- 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。

（C読むこと（1）イ）

- 根拠の大切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

（B書くこと（1）ウ）

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する単元の目標

- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

3 美術科の題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・ 形や色彩などの組み合わせや、それらが感情にもたらす効果などを理解する。

〔共通事項〕(1) ア)

- ・ 遠近法や明暗法などの造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。

〔共通事項〕(1) イ)

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・ 西洋で受け継がれてきた表現の特質などからルネサンスの美術作品がもつよさや美しさなどを
感じ取り、新たな表現を目指した作者の制作の意図や表現の工夫、関連する文化や社会について
考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

〔「B鑑賞」ア(ア)〕

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、ルネサンスの美術作品について主体的に考えるなどして、鑑
賞する学習活動に取り組もうとする。

4 単元の評価規準（国語科）

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む 態度
意見と根拠及び具体と抽象な ど、情報と情報との関係につ いて理解している。	① 目的に応じて複数の情報を 整理しながら適切な情報を得 て、内容を解釈している。 ② 根拠の大切さを考えて説明 や具体例を加えたり、表現の 効果を考えて描写したりする など、自分の考えが伝わる文 章になるように工夫して いる。	粘り強く観点を明確にして文 章を比較し、今までの学習を生 かして考えたことを文章にまと めようとしている。

5 題材の評価規準（美術科）

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む 態度
知① 形や色彩などの組み合わ せや、それらが感情にもた らす効果などを理解して いる。 知② 遠近法や明暗法などの造 形的な特徴を基に、全体の	鑑 西洋で受け継がれてきた表 現の特質などからルネサンス の美術作品がもつよさや美し さなどを感じ取り、新たな表 現を目指した作者の制作の意 図や表現の工夫について考え	態鑑 美術の創造活動の喜びを 味わい、作者の制作の意図 や表現の工夫、ルネサンス について主体的に考えるな どして、鑑賞する学習活動 に取り組もうとしている。

イメージや作風などで捉えることを理解している。	るなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	
-------------------------	----------------------------	--

6 指導観

(1) 題材観（美術科の観点から）

本題材は、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）第 6 節 美術

〔第 2 学年及び第 3 学年〕 2 内容

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

を受けて設定した。

本題材は、国語科の教員と美術科の教員がチーム・ティーチングにより授業を行う。中学校学習指導要領解説美術編（平成 29 年 7 月）には鑑賞の活動を充実させる手だての一つとして次のように記されている。「言葉を使うことにより自分の考えを整理したり、他者の考えなども聞きながら、自分になかった視点や考えをもったりすることは大切であり、それらを取り入れながら、自分の目と心でしっかりと作品を捉えて見ることにより、自分の中に新しい価値が作りだされていくことになる。」

このことから、美術科で培われる造形的な視点を生かしつつ、作品から感じ取ったよさや美しさを国語科の鑑賞文の学習で表現したり、伝え合ったりする。その過程を教科等横断的な視点で授業設計することにより、生徒の資質・能力の向上が図られると考えた。

(2) 生徒観

第 2 学年の生徒は全体的に素直で明るく、授業においても積極的に自分の気持ちや意見を表すことができる。また、周囲と協働で作業したり、話し合ったりする活動にも主体的に取り組むことができる。美術の制作活動では自分の表したい表現に取り組み、友達や教員からのアドバイスを制作に生かせる柔軟性がある。第 1 学年の鑑賞活動では楽しそうに周囲と対話しながら取り組んでいたが、自分の感じていることを言葉で書き表すことや、根拠をもって話すことには課題が見られた。作品のよさや美しさを感じ取ろうとする姿勢は着実に培われてきているため、言語活動を充実させることにより、造形的な視点で対象を捉える力を更に伸ばし、それらを伝え合う活動を通して、見方や感じ方を深めていく。

(3) 教材観

題材（単元）の前半では、国語科の教材を読む前に予備知識が無い状態で「最後の晚餐」の絵画作品を鑑賞する。「最後の晚餐」はルネサンス期にイタリアの画家レオナルド・ダ・ヴィンチによって描かれたテンペラによる壁画作品である。新約聖書のイエス・キリストと十二使徒による最後の晚餐をモチーフとしており、キリストがユダの裏切りを予告した場面としても広く知られる作品である。『裏切り者』は一体誰か」という問いを題材の導入で投げかけることにより、生徒の興味を一気に惹きつけることを意図して、授業を計画する。作品の専門的な知識を有する生徒も一定数いることが予想されるが、正解、不正解ではなく造形的な視点を根拠に推察することを伝える。グループワークも取り入れながら、それぞれの感じ方を尊重する雰囲気醸成する。

その後、国語科教材の評論文「君は『最後の晚餐』を知っているか」及び解説資料「レオナルド・ダ・ヴィンチ作『最後の晚餐』の新しさ」（出典：「国語2」光村図書出版）に基づいて授業を展開する。この教材では、「最後の晚餐」に対し「なぜか『かっこいい。』と思った。」という冒頭に示される筆者の茫漠とした感想の根拠が具体的に説明されていく。筆者は「かっこいい。」と思った根拠として主に「解剖学」、「遠近法」、「明暗法」の3点を挙げて説明している。造形的な視点との関連を踏まえながら、文章構成の工夫について考える。第3時には解説資料の文章を比較し、説得力のある文章構成について更に理解を深められるようにする。

題材（単元）の後半では、同時代の彫刻家、画家ミケランジェロ・ブオナローティによって描かれた「最後の審判」を鑑賞する。時代の他に、壁画作品であることや、新約聖書を題材としていることもレオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晚餐」と共通する。作品の背景や作者について簡単に解説した後に「ミケランジェロ本人はどの人物か」と問う。造形的な視点を根拠に自分としての答えを導き出し、鑑賞文としてまとめることを通して、見方や感じ方を深める。

ア 生徒準備物（国語科・美術科共通）

一人1台の学習者用端末、美術科教科書、国語科教科書、筆記用具

イ 授業者準備物（国語科・美術科共通）

タブレット端末、プロジェクター、ワークシート（デジタル配布を含む）、作品（デジタル配布、紙に印刷して配布）、国語科教科書、美術科教科書

7 年間指導計画による位置付け

(I) 国語科

	単元名・題材名	学習内容
第1学年	ダイコンは大きな根？	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する力を培う。
第1学年	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめる力を培う。
第2学年	思考のレッスンⅠ 具体と抽象	意見と根拠及び具体と抽象など、情報と情報との関係について理解を深める。

(2) 美術科

	単元名・題材名	学習内容
第1学年	ロゴマークを作ろう	目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを簡潔にしたり統合化したりするなど色の知識や性質、色と形の関係などを理解することができた。本題材では、この学習で培った形や色彩の関係性に対する知識などが生かされると想定している。
第2学年	作家の目で世界を見てみよう	自分や友達の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができた。この学習で培った見方や感じ方を生かし、本題材ではより深く作品について考えられるようにする。

過年度の「年間指導計画一覧」を確認すると、把握しやすくなる。

授業デザインソフトの活用 2

(1) 「TT チェックシート」を用いながら、各教科で育成したい資質・能力や授業のねらいを踏まえた上で、指導計画を立てる。

TT チェックシート

単元（題材）名

君は「最後の晩餐」を知っているか

この単元（題材名）を通じて、特に伸ばしたい教科の資質・能力や相手教科に期待することや要望等を記入する。

教科

国語

・本文中にある「解剖学」、「遠近法」、「明暗法」の3つの技法についてイメージがしづらいため、分かりやすく解説してほしい。
 ・3つの技法が本文中のどこに使われ、それらが根拠としてどのように生かされているかについて生徒の理解を深めたい。

教科

美術

・色、形及び構図といった「造形的な視点」が感情にもたらす効果などに対する理解を深めるため、それらを根拠とした鑑賞文を書かせたい。
 ・単元（題材）で各自で書いた鑑賞文を伝え合う活動を通して、作品に対する見方や感じ方を深められるようにしたい。

主な学習活動						教材・評価			実施日時						
時	教科	国語	メインで指導する教科（教員）で記入	教科	美術	メインで指導する教科（教員）で記入	使用教材等・評価の有無	格納先（リンク貼付）	クラス	月	日	曜日	校時		
1	導入	分		導入	5分	本時の目標を確認する。			B組	10	月	3	日	木曜日 3時	
	展開1	分		展開1	7分	「『真切り者』は誰か」考える。	ワークシート	×	授業支援クラウド	D組	10	月	4	日	金曜日 2時
	展開2	分		展開2	5分	班で意見交換する。			A組	10	月	4	日	金曜日 6時	
	展開3	分		展開3	25分	自分の考えも鑑賞文としてまとめる。	ワークシート	○	授業支援クラウド	C組	10	月	8	日	火曜日 2時
	展開4	分		展開4	分				組	月	日	曜日	時		
	終末	分		終末	5分	本時の振り返りもする。	振り返りシート	○	授業支援クラウド	組	月	日	曜日	時	
2	導入	10分	漢字の学習に取り組む。目標の確認もする。	導入	分		漢字のワーク	○	B組	10	月	4	日	金曜日 1時	
	展開1	7分	教科書の範読を聞く。	展開1	分				A組	10	月	7	日	月曜日 3時	
	展開2	13分	文章も内容のまとまりに分けて整理する。	展開2	分		ワークシート		D組	10	月	7	日	月曜日 4時	
	展開3	分		展開3	5分	3つの技法の説明を聞く。			C組	10	月	9	日	水曜日 3時	
	展開4	分	3つの技法と本文の内容を関連づける。	展開4	分				組	月	日	曜日	時		
	終末	5分	本時の振り返りもする。	終末	分		振り返りシート	○	授業支援クラウド	組	月	日	曜日	時	
3	導入	7分	漢字の学習に取り組む。目標の確認もする。	導入	分		漢字のワーク	○	B組	10	月	7	日	月曜日 6時	
	展開1	38分	解説資料を読み、本文と比較する。	展開1	分		ワークシート		A組	10	月	8	日	火曜日 4時	
	展開2	分	一観点を明確にして表にまとめる。	展開2	分				D組	10	月	8	日	火曜日 5時	
	展開3	分		展開3	分				C組	10	月	10	日	木曜日 4時	
	展開4	分		展開4	分				組	月	日	曜日	時		
	終末	5分	本時の振り返りもする。	終末	分		振り返りシート	○	授業支援クラウド	組	月	日	曜日	時	
	導入	7分	漢字の学習に取り組む。目標の確認もする。	導入	分		漢字のワーク	○	B組	10	月	8	日	火曜日 3時	
	展開1	28分	グループで1枚の絵を鑑賞する。	展開1	分	(適宜、机間指導を行う。)			A組	10	月	10	日	木曜日 1時	
	展開2	分	感じたこと等も付箋に書き出す。	展開2	分		付箋	×	D組	10	月	11	日	金曜日 2時	

使用教材と、その評価の有無に関して、学習内容の行に合わせて記入する。使用教材の格納先のリンクを貼付すると共有しやすくなる。

授業時間

国語の学習

美術の学習

主な学習活動						教材・評価		
時	教科	国語	メインで指導する教科(教員)で記入	教科	美術	メインで指導する教科(教員)で記入	使用教材等・評価の有無	格納先(リンク貼付)
1	導入	分		導入	5分	本時の目標を確認する。		
	展開1	分		展開1	7分	『裏切り者』は誰か?考える。	ワークシート	× 授業支援クラウド
	展開2	分		展開2	5分	班で意見交換する。		
	展開3	分		展開3	26分	自分の考えを鑑賞文としてまとめる。	ワークシート	○ 授業支援クラウド
	展開4	分		展開4	分			
終末	分		終末	5分	本時の振り返りをする。	振り返りシート	○ 授業支援クラウド	
2	導入	10分	漢字の学習に取り組む。目標の確認をする。	導入	分		漢字のワーク	○ 授業支援クラウド
	展開1	7分	教科書の範読を聞く。	展開1	分			
	展開2	13分	文章を内容のまとまりに分けて整理する。	展開2	分		ワークシート	授業支援クラウド
	展開3	分		展開3	5分	3つの技法の説明を聞く。		
	展開4	分	3つの技法と本文の内容を関連づける。	展開4	分			
終末	5分	本時の振り返りをする。	終末	分		振り返りシート	○ 授業支援クラウド	
3	導入	7分	漢字の学習に取り組む。目標の確認をする。	導入	分		漢字のワーク	○ 授業支援クラウド
	展開1	38分	解説資料を読み、本文と比較する。	展開1	分		ワークシート	
	展開2	分	一観点を明確にして表にまとめる。	展開2	分			
	展開3	分		展開3	分			
	展開4	分		展開4	分			
終末	5分	本時の振り返りをする。	終末	分		振り返りシート	○ 授業支援クラウド	
4	導入	7分	漢字の学習に取り組む。目標の確認をする。	導入	分		漢字のワーク	○ 授業支援クラウド
	展開1	28分	グループで1枚の絵を鑑賞する。	展開1	分	(適宜、机間指導を行う。)		
	展開2	分	感じたこと等を付箋に書き出す。	展開2	分		付箋	×
	展開3	10分	グループで協力して鑑賞文を書く。(練習)	展開3	分			
	展開4	分		展開4	分			
終末	5分	本時の振り返りをする。	終末	分		振り返りシート	○ 授業支援クラウド	

8 題材(単元)の指導計画(全6時間)

時 ○主となる教科	目標 (教科)	○学習内容 ・学習活動	評価規準	
			国語科	美術科
第1時 ○美術科	形や色などの組み合わせや、それらが感情にもたらす効果などを考えながら、自分なりの意見をもつことができる。(美術科)	○ 「最後の晚餐」を鑑賞する。 ・ 「『裏切り者』は誰か」という問いに向かって 個人で「最後の晚餐」を鑑賞した後、班内で対話しながら鑑賞する。最後に自分としての結論を鑑賞文としてまとめる。		ア①② 鑑賞文 ウ 観察
第2時 ○国語科	文章の内容や構成を大まかに理解し、絵画作品の「最後の晚餐」と文章を結び付けて理解することができる。(国語科)	○ 文章の内容や構成を理解する。 ・ 前回の振り返り ・ 「君は『最後の晚餐』を知っているか」の範読を聞く。 ・ 文章を3つに分け、それぞれの内容を整理する。 ・ 「解剖学」、「遠近法」、「明暗法」について説明を聞く。 ・ 「解剖学」、「遠近法」、「明暗法」がどこに使われているか「最後の晚餐」と結び付け確認する。	ア ワーク シート	
第3時 ○国語科	2つの文章を比較し、それぞれの特徴、共通点及び	○ 2つの文章を比較して考える。 ・ 解説資料「レオナルド・ダ・ヴ	イ①② ワーク	

	相違点を表にまとめることができる。(国語科)	インチ作『最後の晚餐』の新しさを読み、共通点及び相違点を明確にして表にまとめる。	シート	
第4時 ○国語科	グループでの鑑賞活動を通して鑑賞文の書き方について理解を深めることができる。(国語科)	○ 鑑賞文を書く練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで1枚の絵を鑑賞する。 ・ 鑑賞した絵の魅力、根拠となる特徴や感じたこと、想像したことを付箋に書き出す。 ・ 書き出した付箋の感想を推こうし、協力して簡易的な鑑賞文を書く。 	イ①② ワークシート 付箋 鑑賞文 ウ グループワーク観察	
第5時 ○美術科	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。(美術科)	○ 「最後の審判」を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ミケランジェロ本人はどの人物か。」という問いに向かって 個人で「最後の審判」を鑑賞した後、班内で対話しながら鑑賞する。最後に自分としての結論を鑑賞文としてまとめる。 		イ 鑑賞文 ウ 振り返り
第6時 ○美術科	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。(美術)	○ 鑑賞文を読み合い、感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞文を完成させる。 ・ 班になり互いの鑑賞文の感想を伝え合ったり、感じ方の違いについて対話したりする。 ・ 題材(単元)の振り返りを行う。 		ウ ワークシート

9 各時の展開

(I) 検証授業(美術科)(第1時/6時間)

ア 本時の目標

形と色などの組み合わせや、それらが感情にもたらす効果などを考えながら、自分なりの意見をもつことができる。

イ 展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 7分	○ 「最後の晚餐」を見て考える。 ・ 第一印象について、近くの人と意見交換する。 ○ 本時の目標を確認する。	◇ 何名かの意見を板書し、どのような印象を抱いたのか、クラス全体で共有する。 ◇ 衛星地図サービスで作品がある教会を確認する。	
	【目標】 形と色などの組み合わせや、描かれている人物の感情などを考えながら、自分の意見をまとめよう。		
展開 38分	○ 『裏切り者』は誰か」考える。 ・ 個人で授業支援クラウドに選んだ人物とその理由をまとめる。(7分) ○ 班で意見交換する。(5分) ○ クラス全体の意見を踏まえて、最終的な自分の考えを鑑賞文としてまとめる。(26分)	◇ 生徒が互いの感じ方を尊重し、造形的な視点を十分に働かせることができるよう、「中央の人物がキリスト」であること、「キリストが磔刑になる最後の晚餐のシーン」であることを伝える。 ◇ 正解を導き出すことが目的ではなく、人物の表情やしぐさ、座る位置(構図)、色彩等を根拠として考えることが大切であることを伝える。 ◇ 授業支援クラウドの内容を全体で共有するとともに、何名かに指名して意見を端的に板書する。適宜、問い返しを行うことで造形的な視点で捉えられるようにする。	(美)ア① 鑑賞文 (美)ア② 鑑賞文 (美)ウ 観察
まとめ 5分	○ 本時の振り返りをする。 ・ 授業支援クラウドへ自己評価を入力する。	◇ 何名かに指名し、鑑賞文の内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解させる。	

課題文及び生徒の取組み



【課題】

キリストを「裏切ろうとしている」のは①～⑫の誰だと思うか。色や形、構図、人物の表情やポーズを根拠として2点挙げ、自分の考えたことや感じたことを次のカードに400字以内で書きなさい。
(上の絵をタップすると大きく、鮮明になります。)

※提出をする際は課題文を切り離し、このカードのみ提出箱へ入れてください。

理由①

私は、『最後の晩餐』を知っているか」鑑賞文① 担当：長里

組 番 氏名

私は、キリストを「裏切ろうとしている」のは、④の人物であると考え。理由は次の二点である。

理由①

第一に、全体で見ると④の人物だけが態勢が大きく違う。他の者は驚いたり、話し合ったりしているが、④の人物の態勢がややキリストに向かつて前かがみになっている。焦っているとも考えられるが、顔が険しいため、殺気のオーラが感じられる。キリストが分かっている中での態勢だと思ふ。口止めに討つのなら、顔に出さないほうがいいと私は思うが、この態勢からキリストは裏切り者から考えても、偉大なかもしれない。

理由②

第二に、④の人物をよく見ると他の者と違って、何かを手を持っている。他の者は驚いた拍子に食べていたものが手から落ちていく。しかし、④の人物は刃物のようなものをしっかりと手に持っている。一瞬驚いたとは思いますが、その後速やかに態勢をとったのだと思ふ。このことから、刃物を持っている右手に力をしっかりと入れて殺気を出しているように感じられる。

理由①

私は、『最後の晩餐』を知っているか」鑑賞文① 担当：長里

組 番 氏名

私は、キリストを「裏切ろうとしている」のは、④の人物であると考え。理由は次の二点である。

理由①

第一に、全体で見ると④の人物だけが態勢が大きく違う。他の者は驚いたり、話し合ったりしているが、④の人物の態勢がややキリストに向かつて前かがみになっている。焦っているとも考えられるが、顔が険しいため、殺気のオーラが感じられる。キリストが分かっている中での態勢だと思ふ。口止めに討つのなら、顔に出さないほうがいいと私は思うが、この態勢からキリストは裏切り者から考えても、偉大なかもしれない。

理由②

第二に、④の人物をよく見ると他の者と違って、何かを手を持っている。他の者は驚いた拍子に食べていたものが手から落ちていく。しかし、④の人物は刃物のようなものをしっかりと手に持っている。一瞬驚いたとは思いますが、その後速やかに態勢をとったのだと思ふ。このことから、刃物を持っている右手に力をしっかりと入れて殺気を出しているように感じられる。

※提出をする際は課題文を切り離し、このカードのみ提出箱へ入れてください。

理由①

私は、『最後の晩餐』を知っているか」鑑賞文① 担当：長里

組 番 氏名

私は、キリストを「裏切ろうとしている」のは、⑥の人物であると考え。理由は次の二点である。

理由①

他の十一人は他の弟子たちを疑っていたり、自分は裏切り者ではないと主張していたり、自分が犯人ではないかと疑われていても焦ることなく微笑んでいることと、右手にナイフのような刃物を隠し持っているように見えるから。また、イエス・キリストに一番近い位置にいるがイエスのほうを向いていないため。

理由②

他の十一人の弟子たちよりも服の色が目立っていて、肌の色も白く存在感がある。イエスと似たような服装をしていて、イエスは右が赤、左が青だが⑥は右が青、左がピンクでイエスと色の配置が逆になっていることなどから、⑥が裏切り者だと考えられる。

理由①

私は、『最後の晩餐』を知っているか」鑑賞文① 担当：長里

組 番 氏名

私は、キリストを「裏切ろうとしている」のは、⑥の人物であると考え。理由は次の二点である。

理由①

他の十一人は他の弟子たちを疑っていたり、自分は裏切り者ではないと主張していたり、自分が犯人ではないかと疑われていても焦ることなく微笑んでいることと、右手にナイフのような刃物を隠し持っているように見えるから。また、イエス・キリストに一番近い位置にいるがイエスのほうを向いていないため。

理由②

他の十一人の弟子たちよりも服の色が目立っていて、肌の色も白く存在感がある。イエスと似たような服装をしていて、イエスは右が赤、左が青だが⑥は右が青、左がピンクでイエスと色の配置が逆になっていることなどから、⑥が裏切り者だと考えられる。

(2) 検証授業(国語科) (第2時/6時間)

ア 本時の目標

文章の内容や構成を大まかに理解し、絵画作品の「最後の晚餐」と文章を結び付けて理解することができる。

イ 展開

時間	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規 (評価方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の学習に取り組む。(5分) ○ 前時の活動を想起する。(4分) ○ 本時の目標を確認する。(1分) 	◇ 前回の鑑賞文の内容を簡単に共有するとともに、登場人物の説明を端的に行う。	
	【目標】 文章の内容や構成を捉え、絵画作品の「最後の晚餐」と文章を結び付けて考えよう。		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「君は『最後の晚餐』を知っているか」の内容を大まかに整理し、結論の根拠がどこに、どのように示されているか理解する。 ・ 指導者の範読を聞く。(7分) ○ 文章を内容のまとまりごとに3つに分け、それぞれの内容を整理する。(13分) ○ 「解剖学」、「遠近法」、「明暗法」について説明を聞く。(5分) ○ 「解剖学」、「遠近法」、「明暗法」がどこに使われているか「最後の晚餐」と結び付け確認する。(10分) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 範読を聞きながら、構成が分かれると思う部分に線を引くように指示する。 ◇ 文章の内容が端的に伝わるように、要約するように指示する。 ◇ スライドを用いながら図で視覚的に補足し、説明する。 ◇ 絵と文章を比べながら確認する。 	(国) ア ワークシート
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返りをする。 ・ 授業支援クラウドへ自己評価と感想を入力する。 	◇ 何名かに指名し、感想の内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解できるようにする。	

(3) 検証授業(国語科) (第3時/6時間)

ア 本時の目標

2つの文章を比較し、それぞれの特徴、共通点及び相違点を表にまとめることができる。

イ 展開

時間	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字の学習に取り組む。(5分) ○ 前時の活動を想起する。 ○ 本時の目標を確認する。 	◇ 前回の内容を端的に振り返る。それを踏まえ、本時の解説資料の内容との関連を説明する。	
	【目標】2つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点、相違点を表にまとめよう。		
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2つの文章を比較して、文章の特徴などについて考える。 ・ 解説資料「レオナルド・ダ・ヴィンチ作『最後の晚餐』の新しさ」を読み、本文との比較について観点を明確にして表にまとめる。 	◇ 文章の特徴的な部分を表にまとめるように促す。	(国)イ① ワークシート (国)イ② ワークシート
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返りをする。 ・ 授業支援クラウドへ自己評価と感想を入力する。 	◇ 何名かに指名し、感想の内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解できるようにする。	

(4) 検証授業(国語科) (第4時/6時間)

ア 本時の目標

グループでの鑑賞活動を通じて鑑賞文の書き方について理解を深めることができる。

イ 展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に取り組む。(5分) ○ 前時の活動を想起する。 ○ 本時の目標を確認する。 	◇ 前回の内容を端的に振り返る。	
	【目標】 グループでの鑑賞活動を行い、鑑賞文の書き方について理解を深めよう。		
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞文を書くために、自己の思いや気づきを言語化し、グループで共有する。 ・ グループで1枚の絵を鑑賞する。 ・ 鑑賞した絵の魅力、根拠となる特徴や感じたこと、想像したことを付箋に書き出す。 ・ 書き出した付箋の感想を推こうし、グループで協力して鑑賞文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ グループ活動に入る前に、鑑賞文の書き方を説明する。 ◇ 感じたこと、想像したことは次々に書き出すように促す。 ◇ 班で協力して1つの鑑賞文を完成できるよう、適宜、机間指導を行う。 	<p>(国)イ① ワークシート、付箋、鑑賞文</p> <p>(国)イ② ワークシート、付箋、鑑賞文</p> <p>(国)ウ グループワーク観察</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返りをする。 ・ 授業支援クラウドへ自己評価と感想を入力する。 	◇ 何名かに指名し、感想の内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解できるようにする。	

(5) 検証授業(美術科) (第5時/6時間)

ア 本時の目標

造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。

イ 展開

時間	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「最後の審判」を見る。 ・ 第一印象について、近くの人と意見交換する。 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 何名かの意見を板書し、どのような印象を抱いたのか、クラス全体で共有させる。 	
	<p>【目標】 造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えたりして、自分の意見をまとめよう。</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ミケランジェロ本人はどの人物か」考える。 ・ 個人で授業支援クラウドに選んだ人物とその理由をまとめる。(7分) ○ 班で意見交換する。(7分) ○ クラス全体の意見を踏まえて、最終的な自分の考えを鑑賞文としてまとめる。(26分) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「上部中央の人物がキリスト」であること、「キリストが磔刑になった後の天国」であることの2点のみ伝える。またミケランジェロについて簡単に解説する。 ◇ 正解を導き出すことが目的ではなく、人物の表情やしぐさ、座る位置(構図)、色彩等を根拠として考えることが大切であることを伝える。 ◇ 授業支援クラウドの内容を全体で共有するとともに、何名かに指名して意見を板書する。適宜、問い返しを行うことで造形的な視点で捉えられるようにする。 	(美) イ 鑑賞文
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返りをする。 ・ 授業支援クラウドへ自己評価を入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 何名かに指名し、感想の内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解できるようにする。 	(美) ウ 振り返り

課題文及び生徒の取り組み



「課題」「最後の審判」の中に描かれているミケランジェロ（作者）は誰だと思うか。図中の中から一人選び出し、**赤ペンで囲みなさい**。また、そう思った理由を次のカードに鑑賞文としてまとめなさい。ただし、色や形、構図、人物の表情やポーズを根拠として二点以上挙げることを。また、カードの文字サイズ（一五ポイント）は変更しないこと。

私が、「最後の審判」の中で作者のミケランジェロだと思ったのは、以下の理由からである。

組番氏名

「君は『最後の晩餐』を知っているか」鑑賞文② 担当：長里

ヒント集を利用して、考えた。

まず、他の人物のほとんどはかたがたがっしりとした体つきだ。この人物だけが明らかに違っている。まるで、抜け殻のように見える。そして、色はやや暗めの色だ。また、体中から力が抜けて、顔はゆがんでいる。この壁面を描いたときに疲れ果て、苦渋を感じていたミケラジエ口と重なるところがある。

また、ミケランジェロは自分のことを「あのぼろ布れ（きれ）に似ている。」という風に言っている。この人物は、まさに「ぼろ布れ」のようだった。

さらに、この人物がいてるのは、「天国」「大地」「地獄」に分けること、「天国」と「地獄」の間だ。そして、何者かにつかれて、地獄にはまだ落ちていない。だが、この人物が手を離した。地獄に真つ逆さなわけて、他人の手に自分の命がゆだねられていく、かなり危ない状況といえる。病を抱え、死を意図していたミケラジエロは、クレメンツ七世から依頼されたこの壁画を完成させるまで生きると、というような意欲で、描いていたのかもしれない。つまり、危ういところを、他の人（仕事）につなぎ留められ、生きていた自分をこの人物に重ねられる、という風にも考えられるのではないだろうか。



私が、「最後の審判」の中で作者のミケランジェロだと思ったのは、以下の理由からである。

組
番氏名

「君は『最後の晚餐』を知っているか」鑑賞文② 担当…長里

[illegible]

(6) 検証授業(美術科) (第6時/6時間)

ア 本時の目標

造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。

イ 展開

時間	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<p>○ 前時の振り返りをする。</p> <p>○ 本時の目標を確認する。</p>	<p>◇ 前時までの活動について、生徒の気づきや考えについて想起することにより、本時の活動に対する意欲を高める。</p>	
	<p>【目標】 鑑賞文の感想を伝え合い、互いの考えを共有し、作品に対する見方や感じ方を深めよう。</p>		
展開 37分	<p>○ 鑑賞文を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○ 班になり、互いの鑑賞文の感想を伝え合い、感じ方の違いについて対話する。</p>	<p>◇ 自分にはなかった考え方や感じ方を造形的な視点で考えさせる。</p> <p>◇ 早く終わった班は、他の班の鑑賞文を授業支援クラウドを活用して読むことによって、他の班で共有された気づきや感じ方について確認できるようにする。</p>	(美) ウ ワークシ ート
まとめ 8分	<p>○ 題材(単元)の振り返りをする。</p> <p>・ 授業支援クラウドへ自己評価と振り返りを入力する。</p>	<p>◇ 何名かに指名し、題材(単元)の振り返りの内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解できるようにするとともに、自己の考えを深めさせる。</p>	

美術 理科

既習事項の関連

美術

〈造形的な見方・考え方〉

自作した顔料の色彩から
発想し、絵を描く活動

教科等横断

見方・考え方を働かせる

理科

〈理科の見方・考え方〉

孔雀石から銅を取り出す
活動（「酸化と還元」の既習事項）

科学的な視点から材料（主に顔料）を捉えることにより、色彩の新たな一面を知り、よさや美しさに気付くことができるようになる。

「感じ方」を深める

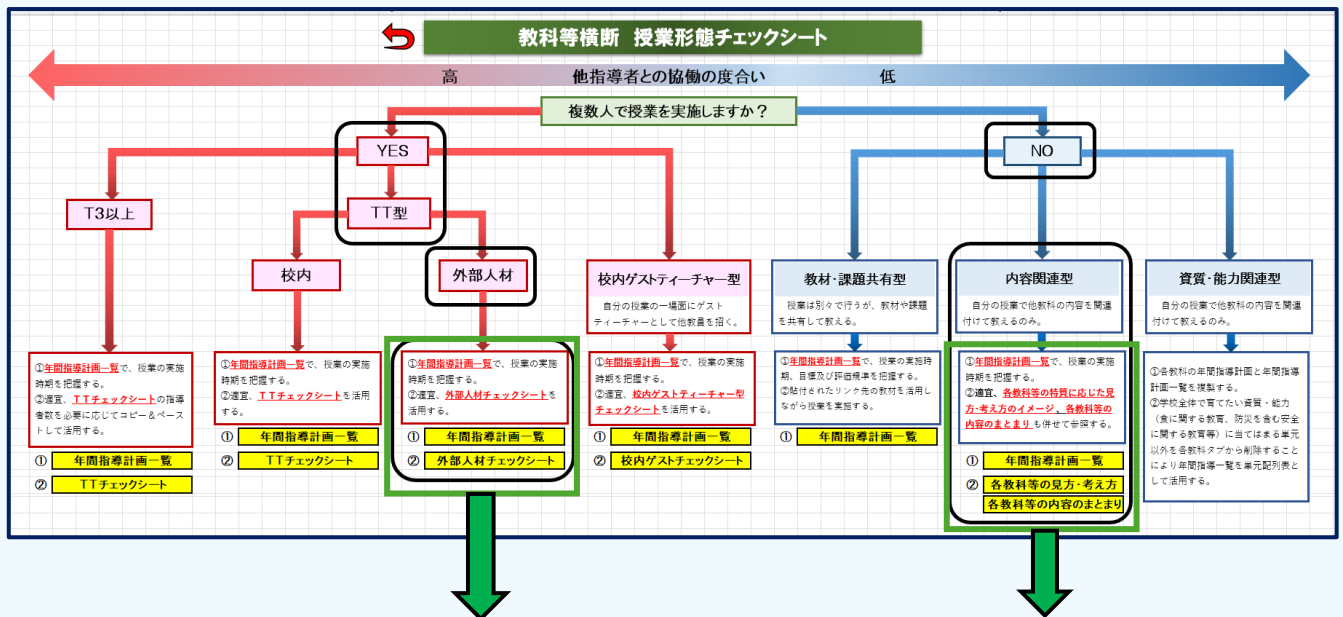


美術科 学習指導案

(理科の既習事項を踏まえた教科等横断的な学習)

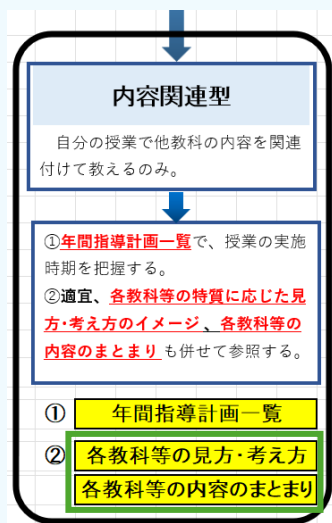
授業デザインソフトの活用 Ⅰ

- (1) 本題材は外部人材を活用しながら、理科の既習事項（1学期「酸化と還元」）を踏まえた授業を行った。第1時では外部人材が講義を行うため、「教科等横断 授業形態チェックシート」の授業形態においては、**数人で授業を実施**→**チーム・ティーチングで実施(TT型)**→**外部人材**に該当する。第2時以降は、理科の既習事項を踏まえながら、美術科教員が一人で授業を行ったため、**複数人では授業を実施しない**→**内容関連型**に該当する。



- (2) どちらの場合も、「年間指導計画一覧」で授業の実施状況を確認する。「外部人材チェックシート」については、後述する。

(3)



各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ		
[幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日 中央教育審議会答申）] 別紙 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380902_2.pdf ※左列の教科名は本作成者が追記		
国語科	言葉による見方・考え方	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉え、その関係性を問いつけて意味付けすること。
社会科	社会的事象の地理的な見方・考え方	社会的な事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
	社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
	現代社会の見方・考え方	社会的な事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けすること。
	数学科	数値や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科	理科の見方・考え方	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
音楽科	音楽的な見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づけている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けすること。
美術科	造形的な見方・考え方	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

「各教科等の見方・考え方」のページ

各教科等の理解を深めるページも適宜参考にする。

1 題材名 地球から、自分の「色」を生み出す

2 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・ 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。
〔共通事項〕(1)ア)
- ・ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することができる。
〔共通事項〕(1)イ)
- ・ 自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。(A表現 (2)ア (ア))
- ・ 自作した顔料や用具、表現方法などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すことができる。(A表現 (2)ア (イ))

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・ 自分がつくった顔料から感じ取ったこと、考えたこと、想像や感情、心の世界など基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、顔料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。(A表現 (1)ア (ア))
- ・ 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術や働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。(B鑑賞 (1)イ (ア))

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・ 主体的に美術の活動に取り組むことで、造形活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養うことができる。

3 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 ① 形、色彩や材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。	発 自作した顔料を深く見つめながら、感じ取ったこと、考えたことや想像、感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化、省略や強調、顔料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。
知 ② 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。		態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品や身近な環境に見られる造形的な美しさについての鑑賞の学習に取り組もうとしている。
技 ① 自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して	鑑 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取	

<p>創造的に表している。</p> <p>技② 自作した顔料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表現している。</p>	<p>り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術や働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。</p>	
--	--	--

4 指導観

(I) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）第 6 節 美術

〔第 2 学年及び第 3 学年〕 2 内容

A 表現

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、協調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

(イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

(I) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

を受けて設定した。

本題材は、理科の既習事項と関連付けながら地域人材（絵の具の専門家）と連携し、鑑賞・表現を一体とした授業を行う。

事前に行った生徒への質問紙調査では、「美術の学習内容は、社会や生活の中で生かせることがあると思う」か、という問いに対し、76%の生徒が肯定的な回答を行ったが、その内訳を見てみると、「当てはまる」は 24%に留まり、「どちらかといえば、当てはまる」が 52%であった。また、

授業のワークシート等の記述を読むと美術で学んでいる内容が実社会とどのようにつながっているのか、自らの生き方とどのように関わっているのか具体的にイメージできている生徒は少ないように感じた。そこで、教科等横断的な視点、地域人材と連携した授業を行うことで各教科の学びや社会とのつながりを実感させることができるのではないかと考えた。

題材の導入の第1時では地域人材から絵の具や科学の歴史、最新の粉体工学に関して話を聞く。人工顔料と天然顔料の違いや顔料の粒の大きさの違いによる明度や彩度の変化等、絵の具の原料になる顔料（岩石）について科学的な視点で捉えた上で、地球やSDGs、自らの生活等につなげて考える。その後、生徒それぞれが集めた岩石を原料とし、顔料を作成する。作成したものは「世界で一つだけの顔料」とし、生徒それぞれが色に名前を付ける。自分が作成した顔料を見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、絵画作品を制作する。自分が名付けた顔料から絵の具を作成し、制作することで描画材料に対する思い入れも深まり、主題も熟成されたものになっていくのではないかと考えた。

(2) 生徒観

美術の授業に意欲的に取り組める生徒が多く、授業が始まる前から準備や制作活動に入ることができている。事前の質問紙調査では、「生活の様々な場面で見える色や形に美しさや面白さを感じる」という問いに対して、「当てはまる」と答えた生徒が39%、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は42%に及んだ。日頃から、造形的な視点を大切にしながら生活していることが想像できるため、そのよさを更に伸ばせるよう授業を計画する。

入学当初は見通しをもって制作していくことに対して難しさを感じている生徒も多くいたが、自ら学習計画を立て、振り返る活動を通して自分の主題に基づきながら見通しをもって制作に臨めるようになってきた。また、第1学年の模刻の授業を通じて、用具や材料を工夫して用いることもできるようになってきている。自分の表したいイメージをもちながら、楽しんで制作に取り組んでいる一方で、自分の思いに合わせて創造することや、イメージを具体的な形にしていくことに課題を感じている生徒もいる。生徒の意欲を更に向上させながら、自らの主題に向かって表現活動が行えるような支援が必要である。

(3) 教材観

絵の具は 粉状の色の粒（染料と顔料）とそれらを接合・接着する粘り気のあるメディウム（糊に近い）から成り立っている。例えば、油絵の具のメディウムは乾性油であり、水彩絵の具はアラビアゴム、アクリル絵の具はアクリル樹脂といった具合にメディウムの違いがそのまま絵の具の違いとなる。色の粒である顔料は鉱物や土等を主な原料としていることが多い。そのため、絵の具は身近な岩石を顔料としてつくることも可能である。顔料の歴史は古く、科学の発達とともに色数も増えていった。本校の第2学年は6月に区内の教育センターが主催する理科の出前授業において、孔雀石から銅を生成する化学反応の実験を行った。孔雀石は「緑青」の顔料に用いられる鉱物である。「焼緑青」という深緑は孔雀石を燃焼させて酸化させたものである。理科の化学反応の既習事項とも関連付けながら授業を展開していく。

普段、何気なく使っている絵の具がどのようにできているのかを科学的な視点も踏まえながら理解し、「自分の『色』」を生み出す活動を通じて、色や材料のよさや美しさを一層感じ取ることができるようになると考えた。

制作に入る前段階に授業開始前の夏季休業期間を利用して、顔料にしたい石を集めてくることを課題とした。色に名称を付ける際の一助として、石を採取した場所の写真を撮ることも伝えた。

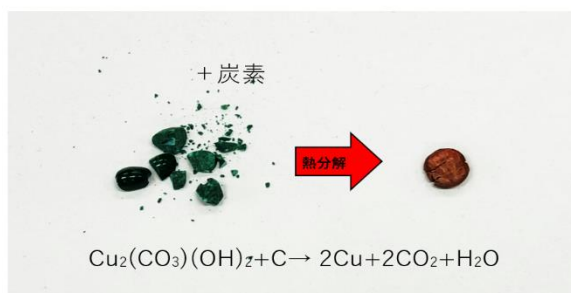
絵の具の作成には岩石の粉碎の工程があるため、安全に十分留意して行う。今回は一部、地域の専門家に石の粉碎を依頼した。顔料の粒子の大きさにより明度や彩度にも変化が生じるため、班ごとに高ナットとアイボルト、ダイヤモンド砥石等、粒子の大きさを変えて安全に粉碎できる用具を用意しておく。



▲ 夏休みの宿題として、生徒が集めた石を専門家に粉碎してもらった。



済美教育センターによる理科の出前授業(6月)
孔雀石を分解・還元して銅を取り出す実験



→ 粒大 ←
→ 粒小
分級の違い (物理変化)

燃焼による化学変化
 $\text{Cu}_2(\text{OH})_2\text{CO}_3 \rightarrow 2\text{CuO} + \text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O}$

<https://www.tokuouken.co.jp>
日本画材料専門店 博恵軒HPより

▲ 理科の既習事項との関連
(授業スライドより)

専門家によって粉碎された校庭の砂 ▶
粒が小さくなると明度が高くなる。
また、燃焼させたものは暖色になる。
(授業スライドより)

1mmは何μm? 1μmは何mm? 換算(変換)の方法

- ・1mm = 1000μm
- ・1μm = 0.001mm

サブミクロン
→ 0.1μm (0.0001mm)

ア 生徒準備物

教科書、資料集、一人1台の学習者用端末、絵の具の素となる石、紙パレット、絵筆、マスク

イ 授業者準備物

タブレット端末、プロジェクター、画用紙、色紙、新聞紙、筆洗器、トレイ、糊、メディウム、モデリングペースト、アラビアゴム、膠、アイボルト、高ナット、ダイヤモンド砥石、雑巾、ハンマー、ビニール袋、参考作品、粉碎した砂

道具箱1



道具箱2 (道具が追加される可能性があります)



道具管理者当番表 各時間2名体制

=仕事内容=

- ① 道具箱を持ってくる
- ② 班員に指示を出して片付ける
- ③ 道具の数を確認する (1番重要)

	A 組	B 組	C 組	D 組
1 回目				
2 回目				
3 回目				
4 回目				

道具はお借りしています!

汚さない、壊さないように丁寧に扱しましょう!!

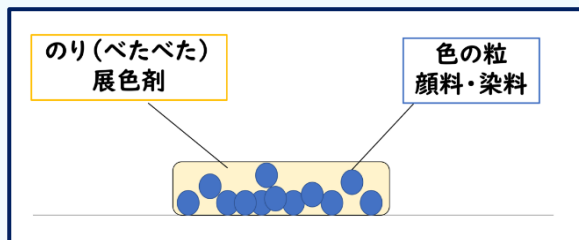
よろしくお願いします!



▲ 専門家から借用した道具は班ごとに貸し出し、輪番制で管理できるようにした。



▲ ボルトの中に石を入れて回すと安全に粉碎できる (左上)。さらに、細かくする場合はタイルですり潰す (左下)。ダイヤモンド砥石ですり潰す方法もある (右)。

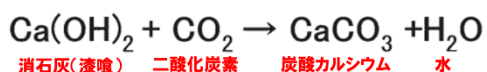


▲ 展色剤を選べるコーナーをつくった。
展色剤の違いによる質感や発色の違いに気付くようになった。



▲ 絵の具とは何か。(授業スライドより)

◀ 国語科の教材文「君は『最後の晩餐』を知っているか」の中で「最後の晩餐」の画面全体が剥離していることが伝えられている。その原因として、壁画に適さないテンペラ絵の具を使用していたことが考えられる。対照的に、「最後の審判」では、フレスコ画の技法が用いられたことで、保存状態がよいことを説明した。画面が乾く過程で、顔料の表面に炭酸カルシウムの強い塗膜が形成されることを科学反応式で説明したところ、理科の既習事項とのつながりから生徒の理解が深まった。



消石灰(漆喰) 二酸化炭素 炭酸カルシウム 水

5 年間指導計画における位置付け

	題材名	学習内容
第1学年	見つめると見えてくるもの	身近なものを観察し、特徴や美しさから主題を生み出し、構図や表現方法を工夫して絵画作品として表す。
第1学年	ロゴマークを作ろう	目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを簡潔にしたり統合したりするなど色の知識や性質、色と形の関係などを理解する。
第2学年	手は語る	対象をよく観察し、深く感じ取ったことから主題を生み出し、塑像作品として表す。
第2学年	作家の目で世界を見てみよう	自分や友達の作品の造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

6 題材の指導計画と評価計画（全6時間）

時	目標	○学習内容 ・学習活動	評価規準
第1時	身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。	○ 専門家から絵の具に関する話を聞く。 ・ 絵の具の成分や顔料に関する知識を得る。 ・ 理解したことをワークシートにまとめる。 ・ 感想を記入する。	ア知①、イ鑑 ワークシート ウ態鑑 観察
第2時	自作した顔料を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化、省略や強調、顔料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。	○ 石から顔料を作成し、メディウムを工夫しながら絵の具をつくる。 ・ 顔料の粒の大きさによる明度や彩度の変化を確認する。 ・ メディウムの違いによる見え方の変化を協力して発見していく。	イ発 ワークシート
第3時 ～ 第5時	自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。	○ 色に名前を付け、そこから感じ取ったことを基に着想し、絵画作品を制作する。 ・ 色に見合った主題を設定し、モチーフ（抽象表現も含む）や表現を工夫しながら制作する。	ア技①、イ発 作品 ア技② 学習カード ウ態表 観察
第6時	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め見方や感じ方を深めることができる。	○ 相互鑑賞を行う。 ・ 作品に込めたねらいや想いを共有しながら相互鑑賞をする。 ・ 鑑賞カードを記入する。 ・ 題材の振り返りを行う。	ア知② 鑑賞カード ウ態表 観察 振り返り

授業デザインソフトの活用 2

「外部人材チェックシート」の活用により、第1時の授業の打ち合わせを行った。

外部人材チェックシート										実施要項等を作成する前段階の打ち合わせ時等に活用する。									
単元(題材)名		地球から、自分の「色」を生み出す		教科等		美術		「各教科等の年間指導計画表」及び「年間指導計画一覧表」で授業の実施状況やねらい、目標等を確認する。											
お互いの要望等																			
▼外部指導員から（生徒に教えたいこと、サポートが必要なこと、心配なこと等）										▼教員から（生徒に教えて欲しいこと、授業を行う上での注意点等）									
・ 生使用の資料をクラウド上で配布してほしい。 ・ 講義中に書画カメラで、顔料のつくり方を実演したい。 ・ 中学校のグラウンドの砂から顔料をつくるため事前送付してほしい。										絵の具と科学のつながりについて。 顔料のつくり方について。									
▼外部指導員及び教員が複数人いる場合は(名前)を記入すると分かりやすい。										クラス別で実施の場合はクラス別に記入する。 ▼合同実施の場合は表枠内のみ記入する。									
時	外部指導員の動き			主な学習活動			教員の動き			教材・評価		教材以外の準備物		実施日時					
時	クラス	月	日	曜日	校時	使用教材等・評価の有無	格納先(リンク貼付)	教材以外の準備物	クラス	月	日	曜日	校時						
授業前																			
導入																			
展開1																			
展開2																			
展開3																			
展開4																			

7 各時の展開

(I) 検証授業（第1時/6時間）

ア 本時の目標

身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができる。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 2分	○ 講師の先生の紹介を聞く。	◇ これまでの既習事項との関連について想起できるよう声を掛ける。	
展開 45分	○ 講師から絵の具に関する話を聞く。 「世界に繋がる岩絵の具（天然顔料）」 主な内容 1 人工顔料と天然顔料 人為と自然 人造無機顔料と天然ラピスラズリとの比較 2 身の回りの色彩環境 染料と顔料の褪色比較 3 天然顔料の歴史 マレーシアの岩窟壁画や稀少鉱物顔料に関して 4 世界につながる天然顔料 世界各地での天然顔料を巡る動向 岩絵の具のイノベーション（先端技術との融合） 分級（顔料の粒子の大きさ）の違いによる顔料の明度の変化	◇ 生徒の様子を観察し、講師の話のどの場面でどのような反応があるかを記録し、第2時以降の授業に生かせるようにする。 ◇ 生徒の様子を見取り、臨機応変に質疑応答の時間を設定する等、適切に補助できるようにする。	ア知①、イ鑑 ワークシート ウ態鑑 観察
まとめ 3分	○ 学習の振り返りを行う。	◇ 何名かに指名し、感想の内容を聞くことで、多様な考え方があることを理解できるようにする。	

(2) 検証授業（第2時/6時間）

ア 本時の目標

自作した顔料を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化、省略や強調、顔料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・ 学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りを行う。 ○ 題材全体の流れと本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ICT機器を活用し、前時の専門家の講義内容と本時の目標のつながりについて考えられるよう声を掛ける。 	
	<p>【目標】 自作した顔料を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化、省略や強調、顔料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに役割分担を行った上で協力して準備を行う。 ○ 石から顔料を作成し、メディウムを工夫しながら絵の具をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の粒の大きさによる明度や彩度の変化を確認する。 ・ メディウムの違いによる見え方の変化を協力して発見していく。 ・ 気付いたことをワークシートにまとめる。 ・ ワークシートを一人1台の学習者用端末で撮影し、学習支援クラウドに提出する。 ○ 班で協力して片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 当番表を活用し、主体的に準備や片付けが行えるようにする。 ◇ 各自の制作に入る前に、用具の基本的な扱いを確認する。石の粉碎方法やメディウムの使い方に関してはICT機器を活用して要点のみ伝え、生徒の意欲を高め、試行錯誤を促す。 ◇ 制作の補助として、ヒント集を学習支援クラウドに上げておく。 	イ発 ワークシート
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 片付け終わった生徒から、学習支援クラウドに自己評価と感想を入力する。 ・ 記入が終わった生徒は他の生徒のワークシートの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業の感想について数名の考えを紹介し、ワークシートの内容を全体で共有することで、考え方を広げられるようにする。 ◇ 次回の授業の持ち物や学習内容を確認し、次時への見通しをもてるようにする。 	

(3) 検証授業（第3時/6時間）

ア 本時の目標

自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りを行う。 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前時のワークシートの内容について、数名の意見を聞きながら、スクリーンで共有する。 	
	<p>【目標】 自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石から顔料を作成し、メディウムを工夫しながら絵の具をつくる。 (前時からの続き) ・ 顔料の粒の大きさの違いによる明度や彩度の変化を確認する。 ・ メディウムの違いによる色の見え方の変化を協働的に発見していく。 ・ 気付いたことをワークシートにまとめ、色に名前を付ける。 ・ ワークシートを一人1台の学習者用端末で撮影し、学習支援クラウドに提出する。 (前半は前時と同じ学習活動を行う) ・ 気に入った色をカードにまとめていきながら、作品の構想を練る。 ○ 班で協力して片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 状況に応じて、全体説明や他の班の生徒の作品を鑑賞しに行ってもよい時間を柔軟に設定する。 ◇ 次時の作品づくりに向けイメージを広げられるよう、色を見たときの印象や気付きなどについて、適宜問い掛ける。 ◇ 面白い気付きや発想が見られた場合には全体共有する。 	<p>ア技①、イ発作品</p> <p>ア技②学習カード</p> <p>ウ態表観察</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行う。 ・ 片付け終わった生徒から、学習支援クラウドに自己評価と感想を入力する。 ・ 記入が終わった生徒は他の生徒のワークシートの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業の感想について数名の考えを紹介し、ワークシートの内容を全体で共有することで、考え方を広げられるようにする。 ◇ 次回の授業の持ち物や学習内容を確認し、次時への見通しをもてるようにする。 	

(4) 検証授業（第4時/6時間）

ア 本時の目標

自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りを行う。 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前時のワークシートの内容について、数名の意見を聞きながら、スクリーンで共有する。 	
	<p>【目標】 自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自作した顔料から主題を生み出し、絵画表現に取り組む。 ・ 自作した色に名前を付け、作品の構想を練る。 ・ 自作した顔料の色や特徴を味わいながら、自分の思いを基に絵画表現に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 状況に応じて、全体説明や他の班の生徒の作品を鑑賞しに行ってもよい時間を柔軟に設定する。 ◇ 面白い気付きや発想が見られた場合には全体で共有する。 ◇ 適宜、机間指導を行い、構想が固まらない生徒の支援を行う。色から着想することや、表現したいことを丁寧に聞き取る。 	<p>ア技①、イ発作品</p> <p>ア技②学習カード</p> <p>ウ態表観察</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行う。 ・ 片付け終わった生徒から、授業支援クラウドに自己評価と感想を入力する。 ・ 記入が終わった生徒は他の生徒のワークシートの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業の感想について数名の考えを紹介し、ワークシートの内容を全体で共有することで、考え方を広げさせる。 ◇ 次回の授業の持ち物や学習内容を確認し、次時への見通しをもてるようにする。 	

(5) 検証授業（第5時/6時間）

ア 本時の目標

自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りを行う。 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前時のワークシートの内容について、数名の意見を聞きながら、スクリーンで共有する。 	
	<p>【目標】 自作した顔料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し、見通しをもちながら創造的に表すことができる。</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自作した顔料から主題を生み出し、絵に表す。 ・ 前時までの自己の表現を改めて見つめ直し、主題について捉え直したり更に深めたりして表現活動に取り組む。 ・ 班で協力して片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 適宜、机間指導を行い、表現方法等につまずきの見られる生徒の支援を中心に行う。 ◇ 色の印象やイメージについて問い掛けながら、表現したいことについて丁寧に聞き取り、表現について試行錯誤できるよう促す。 	<p>ア技①、イ発作品</p> <p>ア技②学習カード</p> <p>ウ態表観察</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行う。 ・ 片付け終わった生徒から、授業支援クラウドに自己評価と感想を入力する。 ・ 記入が終わった生徒は他の生徒のワークシートの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 授業の感想について数名の考えを紹介し、ワークシートの内容を全体で共有することで、考え方を広げられるようにする。 ◇ 次回の授業の持ち物や学習内容を確認し、次時への見通しをもてるようにする。 	

(6) 検証授業（第6時/6時間）

ア 本時の目標

造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め見方や感じ方を深めることができる。

イ 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りを行う。 ○ 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ これまでの活動について想起できるよう声を掛け、表現と鑑賞とのつながりを意識できるようにする。 	
	<p>【目標】 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め見方や感じ方を深めることができる。</p>		
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表現活動の振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品のキャプションを作成する。 ・ 作品を撮影し、授業支援クラウドへ提出する。 ○ 相互鑑賞を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで、作品の主題や感想などを伝え合う。 ・ 作品のよさを造形的な視点に基づいてワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 色の名前の由来や、作品の主題が伝わるようにキャプションの項目を工夫できるようにする。 ◇ 早く終わった生徒は、授業支援クラウド上で他の班員の作品を鑑賞するように指示する。 	ア ^知 ② 鑑賞カード ウ ^{態表} 観察 振り返り
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材の振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業支援クラウドに自己評価と感想を入力する。 ・ 記入が終わった生徒は他の生徒のワークシートの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 題材の感想について数名の考えを紹介し、ワークシートの内容を全体で共有することで、考え方を深められるようにする。 	

生徒の作品（持参した石からつくった絵の具で制作）

